

平成22年度 長良川河口堰県民調査団 要約意見書

(1) 水質・底質について

● 長良川河口堰

質問 事業者の説明では、底質が更新されていて悪化している傾向はないとのことであるが、新聞報道によると泥が堆積してきていると報じられているが、どうなのか。

質問 岐阜県内の下水道整備はどのくらい長良川に寄与しているのか。

(2) 魚類について

● 長良川河口堰

要望 近年、アユの遡上が少なく不漁との話をよく聞く。そのような中でアユ、アマゴのふ化事業は大変よいことだと思う。このような施設をもっと増やせないか。

意見 河口堰の操作によって、各ゲートの流量を調整し、アユを誘導していたのは驚いた。

意見 2005 (H17) 年秋から人工ふ化させたアユを堰下流に放流する取り組みをした結果、長良川の遡上数は徐々に増え、2008 (H20) 年には堰運用後、最高の270万匹が記録されている。しかしその一方で、河口堰運用後「小型化が加速している」と一部では指摘されているようであるが、「よくわからない変化」が生じているのではないかと憂慮している。

(3) その他（治水対策等）について

● 犀川排水機場

意見 犀川圏域は大河川に囲まれるとともに内部にいくつもの河川を有しており、度々洪水に見舞われ、甚大な被害を被ってきた。このため、当圏域では犀川遊水地や犀川排水機場などの河川整備が行われてきたとのことである。ことに出水時には排水機場のフル稼働により水位の低下が顕著になり、水防活動に伴う労力の軽減が図られるなど、治水面で十分な役割を果たしていると思う。

意見 河口堰が完成し、河床が浚渫されたことで、統合排水機場の能力（ポンプ口径、台数）が向上した効果を「はん濫注意水位以上の継続時間」の短縮以外にも、具体的に説明してほしい。

質問 本川に排水する際、長良川が満水の時であっても毎秒35m³排水することは可能なのか。また、排水時に本川水位が高い場合、本川の水圧の影響で排水量が少なくなることはないか。

質問 (ポンプ) 能力毎秒35m³の排水でどのくらい(犀川の)水位が下がるのか。

● 自然再生事業（ヨシ原再生）

意見 堰で潮の干満がなくなったため激減しているヨシ原、9割が消え、水の浄化作用が失われたと言われているので心配である。

意見 (木枠の) 箱型やコンクリートブロック護岸では、ヨシ再生や水の浄化の役目をあまり果たしていないと思う。

質問 木枠の中で植生が行われていたが、金のかけすぎだと思う。水制の役割も兼ねていると聞いたが、突堤或いはケレップ水制の方が安いのではないか。何故この対策なのか。

● 長良川河口堰

質問 河口堰の治水効果について、その根拠を明確にしていきたい。墨俣地点の水位・流量曲線の推移状況及びその基礎データの推移状況を明らかにしてほしい。

意見 長良川中流域の河床や河岸の侵食は進行しており、治水安全度は向上していると考えられるが、他方、下流域では確実に堆積が進んでおり、定期測量は継続し、どれだけ堆積したら浚渫をする必要があるか、数値的に明確にすべきである。

意見 県民の強い要望はゲートの速やかな試験開放である。県当局は県民世論に応え、関係機関に働きかけるべきである。
アンダーフロー等、小手先の試験は環境悪化を導く。全面的な開放こそ意味がある。

質問 マウンド部の河床高測量のH18年以降のデータはないのか。

質問 H15年に実施した測量で河床は大幅に高くなりながら、何故、H16年で毎秒8,000m³流れ、ピーク水位低下2.0mになるのか。

H10年、H11年、H12年、H14年、H16年洪水時の河積、粗度係数、勾配等のデータを明らかにしてほしい。

質問 河口堰の直接的な目的は「潮止め」である。河口堰下流側、並びに河口堰がない揖斐川、木曾川に塩害があるのか。(塩分濃度と被害状況)

無いのであれば、何故発生しないのか説明してほしい。